

資料編

1 上位関連計画の概要

①沖縄21世紀ビジョン 基本計画 <平成 24 年 5 月>

沖縄 21 世紀ビジョン基本計画は、これまでの沖縄振興分野を包含する総合的な基本計画であって、沖縄 21 世紀ビジョンで示された県民が描く将来像の実現に向けた取組の方向などを踏まえ、沖縄の福利を最大化すべく、計画における「基本方向」や「基本施策」などを明らかにしたものです。同時に、沖縄振興特別措置法に位置付けられた沖縄振興計画としての性格を持ち合わせています。

沖縄 21 世紀ビジョンの中で、勝連城跡周辺は「中部圏域 観光リゾート関連産業の振興」に位置付けられています。

<基本施策>

1 沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島を目指して

(5) 文化産業の戦略的な創出・育成 ア 文化資源を活用したまちづくり

沖縄の地理的・歴史的経緯から育まれてきた地域の魅力的な文化資源を再評価するとともに、これらを最大限活用して文化の薫り高いまちづくりを推進します。

3 希望と活力にあふれる豊かな島を目指して

(2) 世界水準の観光リゾート地の形成 ウ 観光客の受入体制の整備

世界水準の観光地としてふさわしい舞台づくりを推進するため、交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化、観光まちづくりの推進、観光関連施設の集積や公共施設の一体的・重点的な整備、ユニバーサルデザインの推進、県民のホスピタリティ向上等に努めます。

5 多様な能力を発揮し、未来を拓く島を目指して

(6) 地域社会を支える人材の育成 イ 地域づくりを担う人材の育成

沖縄の各地域に息づく自然や歴史など様々な地域資源を活用し、住民とともに地域づくりを担う人材の育成に努めます。

<圏域別展開の基本方向>

【中部圏域】 ア 観光リゾート関連産業の振興

世界遺産の所在地（うるま市、中城村、北中城村、読谷村）を中心として、他圏域との連携のもと、琉球王国のグスク及び関連遺産群や自然及び文化を生かした体験・滞在型観光等、地域産業と密接に連携した新たな観光スタイルの創出を図るとともに、歴史的景観の保全に配慮しつつ、当該景観に調和したまちなみ等の周辺整備や歴史的遺産群等を結ぶ観光ルートの整備を促進し、琉球歴史回廊の形成を図ります。さらに、農業や水産業と連携したグリーン・ツーリズムやブルー・ツーリズム、生活体験等の体験・滞在型観光を促進します。

観光関連施設については、国内外からの観光客の増大や観光の高付加価値化などに対応するため観光地形成促進地域制度を活用した施設等の整備を促進するほか、省エネ設備など新たな環境技術等の導入促進に努めます。

②中部広域都市計画「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」＜平成22年8月＞

中部広域都市計画「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」は、共通理念と基本姿勢に基づき、異文化と沖縄の伝統文化の融合、北部都市圏と南部都市圏の結節、駐留軍用地跡地の活用など、その特性を最大限発揮したおおむね 20 年後の目指すべき姿を住民と共有し、その将来像実現のための方向性を明確にするものです。

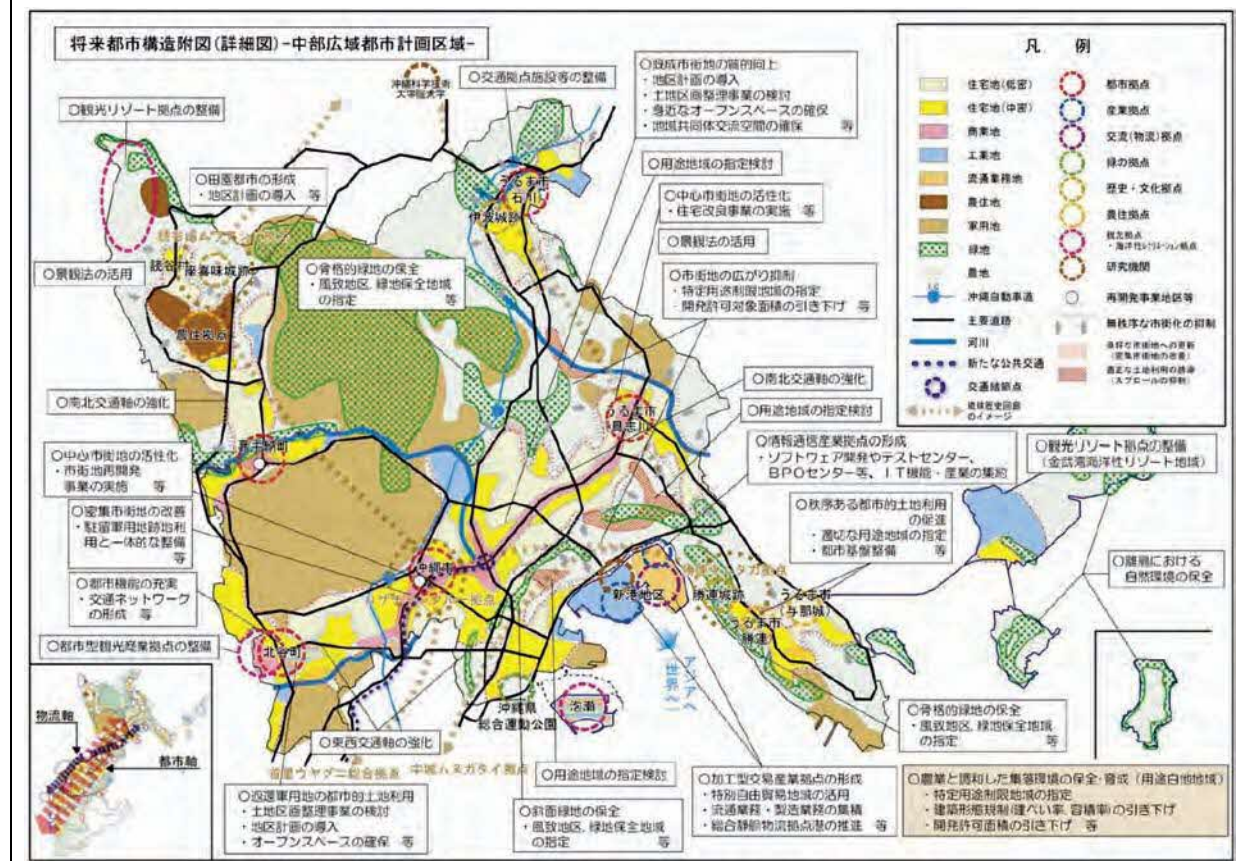
中部広域都市計画「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」の中で、勝連城跡跡周辺は、「歴史・文化拠点：勝連キムタカ拠点」に位置づけられ、文化交流型観光への取組の一環として、歴史的景観の保全、これと調和した周辺整備及び観光ルート化等を促進することとなっています。

4. 都市環境に関する主要な都市計画の決定の方針 (2) 都市景観形成に関する方針

本区域内は、沖縄市を中心として活力とにぎわいのある都市景観とともに、歴史・文化的に価値の高い史跡空間、海岸や斜面緑地などの貴重な自然景観、クサティ森や御嶽林等を有する集落景観等、多様な景観を有しています。よって、これらの景観要素の調和に配慮しつつ景観法の活用等により良好な景観形成に努めます。

特に、沖縄市の胡屋十字路一帯、うるま市の海中道路を含む与勝半島海域、読谷村の残波岬一帯等においては、個性的なまちなみ景観の創出や良好な自然景観の保全を重点的に図るとともに、世界遺産の勝連城跡、座喜味城跡の遺産群等については、文化交流型観光への取組の一環として、歴史的景観の保全、これと調和した周辺整備及び観光ルート化等を促進し図ります。

＜将来都市構造図（詳細図）—中部広域都市計画区域—＞



③新市建設計画 ＜平成 16 年 8 月＞

新市建設計画は、新市の建設を総合的かつ効果的に推進することを目的とし、新市の一体性の速やかな確立及び住民の福祉の向上等を図るとともに、新市の均衡ある発展に資するよう適切に配慮されたものとし計画。

勝連城跡周辺は、南部市街地地域に位置付けられ、「歴史・文化資源の活用を前提として基盤整備」や「安心・安全な道路環境の創出」、「特産物の販売拠点等の整備」などに取り組むこととしています。

＜新市のまちづくりプロジェクト＞

沖縄県の中核拠点づくりプロジェクト

●観光を生かした地域空間創出プロジェクトの推進

新市が北部圏域との結節点であることや西海岸のリゾート地に隣接していることから、広域的な観光拠点づくりを推進し、エイサー・観光闘牛などのイベント、石川高原等のレクリエーション資源さらには伊覇城跡、安慶名城跡、勝連城跡、仲原遺跡等の歴史資源との連帯を図ることによって新たな観光空間の創出を図ります。

●世界遺産周辺整備事業の推進

既存の「世界遺産周辺整備事業」を継承し、勝連城跡周辺の環境整備を推進することにより、同じ世界遺産の中城城跡、座喜味城跡等の遺産群等との一体化による「琉球歴史回廊*」の一端を担います。

* 琉球歴史回廊

奄美・沖縄・先島の歴史・文化を紹介するとともに広域的な連携を図り、魅力ある地域づくりに発展させることをめざしている。

＜地域別まちづくりの方針＞

（6）南部市街地地域 ②まちづくりの方向

- 勝連城跡については、保存・修理に努めるとともに、周辺については歴史・文化資産の保全と活用を前提にした基盤整備を推進します。
- 地域内を結ぶ生活道路については、道路幅員の拡幅や歩道整備により安全・安心な道路環境を創出します。
- 観光客を対象とした特産物の販売拠点等の整備を図ります。



④うるま市総合計画 後期計画 <平成24年3月>

うるま市総合計画後期計画は、今後10年間のうるま市のまちづくりの指針となる計画です。平成19年度に策定されたうるま市総合計画・前期基本計画は、平成23年度をもって5年間の計画期間が終了することから、平成24年度から5年間の計画期間とする「うるま市総合計画・後期基本計画」を策定しました。

回遊観光に関する内容としては、「歴史・文化遺産にふさわしい景観づくり」や「安心・安全な道路環境の創出」、「地域住民の参加や協力による継続的な文化財の保護・管理・活用」、「観光産業と連携した体験型の観光振興」などに取り組むこととしています。

<分野別計画 施策の推進>

1-3-1 都市計画・街づくり・景観づくり (4) 景観づくりの推進

②勝連城跡や伊波城跡などの歴史公園の整備にあわせ、その周辺については、歴史・文化遺産にふさわしい景観づくりを推進します。

2-3-2 歴史・文化財 (1) 文化財を生かしたまちづくり・地域づくり

①世界遺産として国内外に誇れる勝連城跡の整備・活用を進めるとともに、周辺地域の保護を図ります。また、周辺の公園整備とあわせて、市民が憩える空間づくりを進めます。

④文化財が市民にとって大切な地域資源であるという認識を高めるとともに、地域住民の参加や協力による継続的な文化財の保護・管理・活用を促進します。また、本市全域の文化財ボランティアなど、地域住民の参加による歴史資源のPR活動を図ります。

3-3-1 観光 (1) 観光振興の取り組み推進

③ブルー・ツーリズムやグリーン・ツーリズムなど、観光産業と連携した体験型の観光振興を図ります。

④滞在型観光等を推進するために、来訪者に対する意識づくり（ホスピタリティ）を進めます。また、観光ボランティアやグリーン・ツーリズムの受け入れ先などと協力を図りながら、観光リゾート産業を担う人歳の育成を支援します。

⑧世界遺産勝連城跡については、本市の文化観光拠点として整備を推進するとともに、休憩所を含めた周辺施設等も有効に活用し、観光誘客及び物産振興を推進します。

3-3-1 観光 (2) 観光資源の整備・充実

①勝連城跡、伊波城跡、安慶名城跡等の歴史資源の整備を促進し、市の観光振興を図ります。

②既存観光資源の整備・設備の充実を促進します。

③観光地形成促進地域の特別措置を活用した観光関連施設の誘致に努めます。

④市内主要道路における道の駅などの観光物産情報拠点の整備を検討し、観光資源をネットワークする観光ルートの設定・整備を図ります。

⑤うるま市都市計画マスタープラン <平成22年3月>

本市都市計画マスタープランは、都市整備の課題を解決するため、市総合計画で示した空間形成に関するより細かな方針を明らかにし、市民、行政、事業者等の協働によるまちづくりの推進に向けた基本的な方針を定めることを目的としています。

勝連城跡周辺は、「勝連）与勝中学校区まちづくり方針」の中に位置付けられ、将来地域像を「緑あふれる風景と歴史伝統文化の息づく活気あふれるまち」となっています。

<（勝連）与勝中学校区まちづくり方針>

ア．将来地域像：「緑あふれる風景と歴史伝統文化の息づく活気あふれるまち」

イ．基本的な考え方

農地や斜面緑地、樹林地などの豊かな緑を守り、勝連城跡に代表されるような歴史伝統文化を地域で引き継いでいきます。また、来訪者や居住者が交流し活気あふれるまちを形成していきます。

ウ．（勝連）与勝中学校区の基本方針

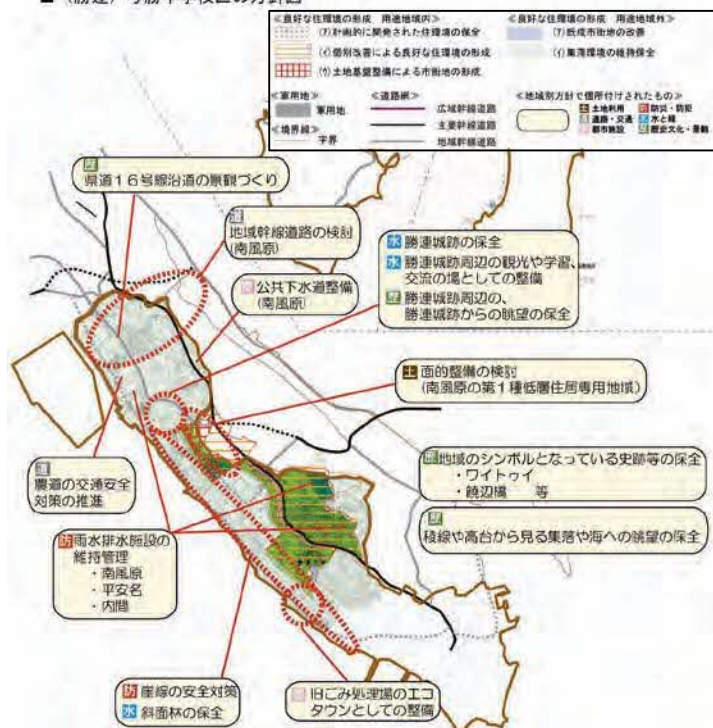
●水と緑

- ・用途地域内に位置する集落においては、地域住民が憩える公園緑地等の整備を検討します。
- ・各集落に残る湧水（カー）などの周辺環境の維持・保全を図るとともに、地域の人々が集える公園としての整備を検討していきます。
- ・世界遺産に指定された勝連城跡周辺を観光や学習、交流の場として整備することにより、歴史遺産を生かした、活力ある文化のまちづくりを推進します。

●歴史文化・景観

- ・世界遺産である勝連城跡の史跡の保全を図るとともに、勝連城跡から周辺地域や海への眺望を保全します。
特に、勝連城跡から海中道路への眺望を保全するため、景観法や都市計画法等に基づく制度や新たな眺望保全のための仕組みを導入し、建物の高さや形態などの規制・誘導を推進します。
- ・県道16号線及びその沿道は、勝連城跡への玄関口として電線の地中化など沿道景観づくりを促進します。
- ・南風原周辺の丘陵地や中城湾に面したサトウキビ畑が広がる緑などのまとまった緑空間は、地域の貴重な自然景観として保全に努めます。

■（勝連）与勝中学校区の方針図



⑥うるま市みどりの基本計画 <平成22年3月>

みどりの基本計画は、都市の緑化や自然環境の保全に関する長期的・総合的な計画の基本方針を示すとともに、緑地の保全及び緑化の目標、その推進のための施策に関する事項を示し、みどりに関する総合的な指針となる計画です。

勝連城跡周辺は、「勝連地域」の中に位置付けられ、「県道16号線の沿道景観づくり」や「南風原周辺の田園風景の保全」、「トカゲハゼの生息地である人工干潟の保全・活用」、「勝連城跡への眺望及び勝連城跡からの周辺地域や海への眺望を保全」などを図ることとなっています。

<勝連地域>

③緑の将来像

「みどりと歴史が息づく 美しくむたかのまち」

将来像の考え方

- 豊かなみどりと勝連城跡をはじめとする歴史文化資源が色濃く残る地域であり、今後もそれらを保全・活用し、将来の子ども達に引き継いでいくまちを目指す。
- 勝連城跡という世界遺産のある地域に相応しい、風光明媚で品格のあるみどりのまちを目指す。

<地域別方針図（勝連地域）>



⑦うるま市景観計画 <平成23年3月>

うるま市景観計画は、景観法第8条に基づく景観計画として策定し、市民、事業者、行政等それぞれの主体が景観づくりを進める上で共有できる、目標や方向性を示すとともに、地域の景観と調和した適正な整備・開発を誘導するルールを示し、市民、事業者、行政等がそれぞれの役割のもと、協働により計画的、実効的な景観づくりを進めていきます。

勝連城跡周辺は、本市を代表する優れた景観を有し、その優れた景観が観光などの資源として地域振興に寄与する可能性が高いと見込まれる地区である「重点地区」の候補に位置付けられています。

＜エリア別方針＞

3) 与勝半島エリア

- ①勝連城跡に代表される高台からの緑と街並み、そして周辺に広がる美しい海を望む眺望景観をまもる
- ②勝連城跡や海中道路に続く雰囲気を感じられる沿道景観をつくる
- ③地域の伝統や文化が色濃く残る生活景観をまもり、そだてる

＜エリア別方針＞

(1) シンボル景観拠点

- ・本市の景観シンボルとなる特に優れた美しい景観を有する資源とその周辺を位置付けます。
- ・拠点づくりにおいては、その中心となる施設及び史跡等の適切な保全・管理等を行い、魅力的な視点場づくりに取り組みます。あわせて、視点場周辺での地域特性に応じた建築物等の高さ・形態・配置等の規制・誘導により、視点場からの眺望景観を積極的にまもりま



(3) グスクロード

- ・伊波城跡、安慶名城跡、勝連城跡などのグスクを結び、今も沖縄本島地域で生活や活動する人々の動線を中心となる主要道路を位置付けます。
- ・景観づくりにあたっては、背景にある歴史的・文化的要素や周辺地域の特性を考慮し、沿道の緑化誘導や修景を進め、快適で魅力ある道路景観づくりに取り組みます。

＜重点地区の候補＞

(1) 勝連城跡及び海中道路周辺地区

- ・このエリアにおいては、市を代表する観光地としての魅力を高める上でも、資源周辺の環境保全、景勝地の周辺にふさわしい街並みづくりなどが強く求められています。

⑧「うるま市観光振興ビジョン」平成 19 年 3 月

「うるま市観光振興ビジョン」は、本市の財産である風土景観、勝連城跡を含めた固有の風土に育まれた貴重な歴史文化、海浜の風土景観を活かした海中道路、地勢や歴史に育まれた産業など豊富な地域資源を活かし、訪れる人にとっても、住んでいる人にとっても魅力ある観光のまちづくりを目指した観光振興の方向を明らかにし、計画的に参考策を進めるための指針として策定されたものです。

勝連城跡周辺については、「世界遺産勝連城跡のまち・うるま」「特産品をいかしたブランド商品の開発」「闘牛・エイサー・世界遺産勝連城跡・海中道路のまちイメージ形成」「観光資源・施設の魅力アップのための周辺環境整備」などが位置づけられている。

<基本理念>

『訪れて感動・住んで自慢のまち・うるま』

<目標>

- 観光入込み数の目標：平成 28（2016）年度 観光入込み数 200 万人
- リピート率の目標：平成 28（2016）年度 リピート率 70%

<回遊観光に関連する内容>

1-1 うるまブランドの確立	(3)「世界遺産勝連城跡のまち・うるま」の確立
1-2 滞在・体験型観光地づくり	(2)自然・文化・産業資源を生かした体験型観光の推進
1-3 観光プログラム・イベントの開発と再構築	(1)観光資源・施設の活用プログラムの再構築
2-2 観光関連産業の活性化	(1)体験型観光の振興と食の開発
3-1 観光のうるまイメージの形成	(1)闘牛・エイサー・世界遺産勝連城跡・海中道路のまちイメージの形成
4-1 観光都市としての雰囲気づくり	(1)観光資源・施設の魅力アップのための周辺環境整備
	(2)街並み・道路・河川等の風土的都市景観の形成
4-2 アクセスと案内機能の充実	(1)アクセス機能の整備と誘導サイン・案内の充実
	(2)駐車場等の整備
5-1 ホスピタリティとサービスの向上	(1)ホスピタリティ意識の啓発普及
	(3)市民総ガイド化の推進
	(4)外国人受け入れ体制の整備
5-2 観光推進体制の確立	(2)協働推進体制の確立
	(3)観光推進人材の育成

⑨「勝連城跡周辺文化観光拠点整備基本計画」平成 25 年 12 月

「勝連城跡周辺文化観光拠点整備基本計画」は、勝連城跡一帯をうるま市の文化・観光の拠点として位置付け、文化・観光の振興をとおして地域活性を資する複合的な機能を集約させたエリアの創出を目指すとともに、創造性に満ちた施策の展開による勝連城跡の活性を図ることを目的に策定されたものです。

＜将来像＞

『肝高の歴史浪漫を感じる交流空間の創出』

＜基本方針と推進施策＞

基本方針	推進施策
「歴史を感じる空間づくり」 歴史・文化的資源を保全・活用する	① 勝連城跡復元整備 ② 勝連城跡歩行者道路整備 ③ 観光案内板・サイン整備 ④ 勝連城跡文化観光施設整備 ⑤ 勝連城跡駐車場整備 ⑥ 沖縄伝統的家屋整備 ⑦ 沖縄伝統的家屋管理運営プログラム ⑧ 学校教育等連携推進プログラム ⑨ 特定用途制限地域の指定 ⑩ 勝連城跡管理運営プログラム ⑪ 県道 16 号線沿道整備 ⑫ (仮)シンボルロード沿道整備
「自然を楽しむ空間づくり」 自然環境を保全・活用する	⑬ ユビタ周辺遊歩道整備 ⑭ 勝連城跡植栽管理 ⑮ ユビタ周辺環境の保全・活用のための調査 ⑯ 景観地区指定にむけたまちづくり
「交流を生み出す空間づくり」 観光拠点としての整備・活用を図る	⑰ 南風原集落の資源の活用と回遊ルートの創出 ⑱ 勝連城跡ライトアップ整備 ⑲ アクセス道における観光誘導サイン整備 ⑳ 県内外に向けた勝連城跡の PR 活動 ㉑ 勝連城跡を活用したイベント等の開催 ㉒ まち歩きプログラムの促進 ㉓ 文化財の調査及び整備の推進 ㉔ 文化観光案内ガイドや人材育成プログラム ㉕ 民泊及び新規滞在施設の整備誘導 ㉖ 観光体験プログラム ㉗ レンタサイクル運営プログラム ㉘ 地産地消の推進 ㉙ 南原漁港活用プログラム

⑩「かっちん南風原景観まちづくり計画(案)」平成 24 年度

「かっちん南風原景観まちづくり計画」は、そこで、勝連南風原景観まちづくり検討会等の意見を踏まえ、地区の特性を活かしたまちづくりを進めることを目的に策定されました。

「かっちん南風原景観まちづくり計画」は、景観法に基づく「うるま市景観計画」に位置づけられ、対象区域はうるま市景観計画の重点地区として位置付けられます。本計画をもとに、市民・行政等の協働の取り組みにより景観まちづくりの具体的な取り組みを進めていきます。

<重点施策>

(2) 景観に関する整備方針等の検討

①県道 16 号線の整備方針

県道 16 号線は市の主要な都市交通の骨格としての機能を持つほか、「肝高」の風格があり風光明媚な勝連城跡に向かうメインストリートです。そのため、周囲の景観に配慮し、メインストリートとしてふさわしい雰囲気づくりを進めます。そこで、県道 16 号線の整備にあたっては、下記の内容で整備することを提案するとともに、今後、管理基準等について地域で更なる検討を行います。

街路樹	・街路樹は現在のガジュマルやフクギを撤去して、世界遺産にふさわしい樹種に変える。統一した街路樹とし、街路樹の間には花を置く ・台風に強い街路樹が望まれることから、市木でもあるリュウキュウコクタンが考えられる
歩道	・歩道の拡張 ・歩道は琉球石灰岩の石畳とする ・マンホールの蓋などの鉄蓋のデザインを検討する
道路	・車道の色は明るい色が良い ・自転車道の整備を図る ・観光客のリピーターを図るため、県道 16 号線沿いに記念木が植えられるスペースを設ける
電線	・地中化の促進
街灯	・街灯のデザインに配慮する（例えば、シーサーのオブジェの設置、灯籠などの低いもの、銀色以外）
ガードレール	・歩道の幅員によりデザインが異なってくるが、自然素材のものや落ち着いた色のものが良い
サイン	・自転車道が整備されるのであれば、自然素材を使用した歴史を感じられる案内板の整備が必要である ・可能であれば、道路標識の設置の仕方（デザイン等）にも配慮する ・特に、勝連城の邪魔にならないような設置位置に配慮する
管理	・街路樹の管理を地域で行うことについて検討 ・地域と行政が連携し、沿道の清掃を徹底する

②城跡に集積する資源の活用と回遊ルートの検討

勝連城跡周辺には歴史的・文化的資源が多く残っているため、これらの資源や緑、海、集落を結び、勝連南風原を楽しく回遊できるまちを目指します。そこで、資源の再認識を行うとともに、回遊ルートの中心となる道路や資源等について修景整備等の検討を行います。

2 各種意向調査

本計画を策定するにあたり、観光客への意向や関連団体等の意向などを確認するため、各種意向調査を実施しました。

また、回遊観光の振興につながる具体的なアイデアの参考として市民ワークショップを実施しました。それらの結果概要を以下に整理します。

(1) 観光客意向調査

1) 調査概要

- 目 的 : 勝連城跡に訪れている観光客のニーズに合った回遊観光を目指すために、観光客のニーズ等を把握する。
- 実施方法 : ①アンケート形式
②インタビュー形式
- 実施場所 : 勝連城跡休憩所
- 実 施 日 : ①平成26年9月 4日(土) ~ 9月30日(火)
②平成26年9月12日(金) ~ 9月14日(日)
- 回 答 数 : 計348件

2) アンケート結果概要

- 勝連城跡への訪問者は県外から多く、また、2人から4人と比較的少人数で訪れる人が多い。
- 勝連城跡の訪問回数は、はじめての人が多ことから、リピーターが少と考えられる。
- 交通手段は、ほとんどレンタカーか自家用車であり、バスを利用して訪問している人は少ない。
- 訪問のきっかけは、旅行情報誌が多く、ホームページや旅行会社で紹介されて訪問した人は少ない。
- 勝連城跡周辺で訪れたい場所では、海、海の近くが最も多く、次いで歴史資源・文化資源、自然や生態系が豊かな場所であり、これらは、勝連城跡から望んだ景観で印象に残っているものであると考えられる。
- 回遊にするにあたって望むものでは、ベンチや東屋など休憩できるスペース、観光資源マップや回遊コース、木陰ができる大きな樹木などの意見が多く、回遊するためのコースや休憩できるスペースが求められている。

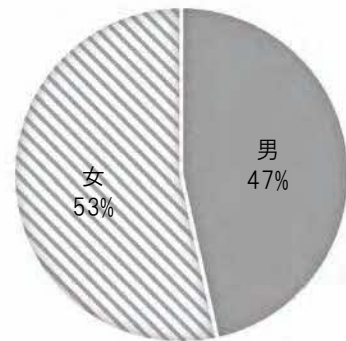
3) アンケート結果

Q1 性別

- ・回答者の性別は男女ほぼ同じ程度であった。

	回答数
男	162
女	186
無回答	0
計	348

性別

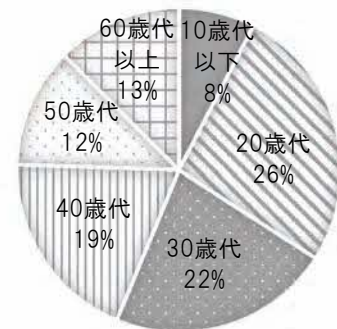


Q2 年齢

- ・回答者の年齢は、20代が最も多く、次いで30代、40代であった。
- ・9月にアンケートを実施したことにより、20～30代の若い世代が多かった。

	回答数
10歳代以下	26
20歳代	91
30歳代	76
40歳代	66
50歳代	41
60歳代	43
無回答	5
計	348

年齢

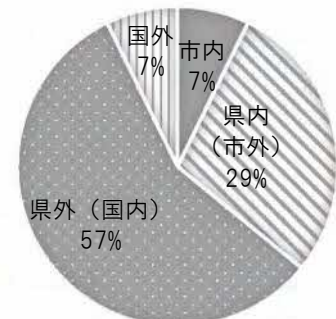


Q3 住まい

- ・回答者の住まいは、県外が最も多く半数以上を占めている。
- ・また、海外からの訪問者が約1割いる。

	回答数
市内	25
県内（市外）	99
県外（国内）	196
国外	25
無回答	3
計	348

住まい



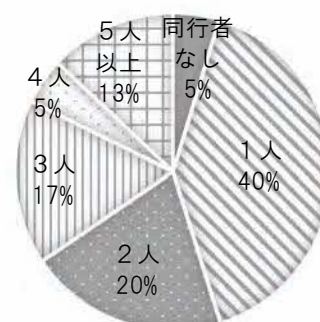
Q4 同行者

- ・同行者数は1人が最も多く、次いで2人、3人であることから、少人数で訪問者が多い。
- ・同行者との関係では、家族が最も多く、次いで友人、夫婦であった。

【同行者数（自分含まず）】

	回答数
同行者なし	16
1人	137
2人	69
3人	57
4人	16
5人以上	44

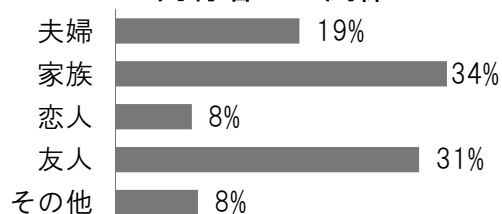
同行者（自分含まず）



【同行者との関係】

	回答数
夫婦	60
家族	108
恋人	25
友人	99
その他	27

同行者との関係



その他の意見

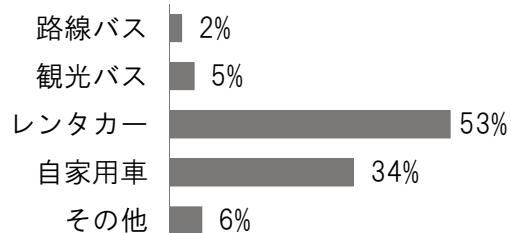
○同僚・会社、○いとこ・親戚、○部活・サークル、○大学のゼミ、○遠足

Q5 ここまでの交通手段

- ・ここまでの交通手段は、レンタカーが最も多く、次いで自家用車となっている。
- ・路線バスや観光バスの利用での訪問は少ない。

	回答数
路線バス	8
観光バス	16
レンタカー	183
自家用車	120
その他	21

交通手段



その他の意見

○バイク、原付、○タクシー、○歩き、○自転車

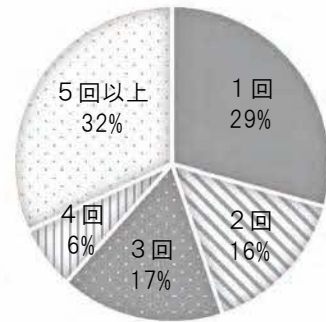
Q6 沖縄県及び勝連城跡周辺への訪問回数

- ・沖縄県への訪問回数は、5回以上が最も多く、次いで初めて（1回）、2回となっているのに対し、勝連城跡への訪問回数は、初めて（1回）が7割以上となっている。
- ・このことから、勝連城跡へのリピーターが少ないと言える。

【沖縄県への訪問回数】

	回答数
1回	68
2回	36
3回	39
4回	15
5回以上	74

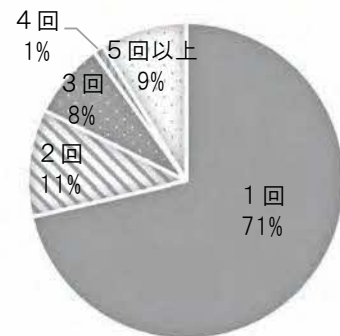
訪問回数（沖縄県）



【勝連城跡周辺への訪問回数】

	回答数
1回	202
2回	31
3回	22
4回	3
5回	25

訪問回数（勝連城跡）

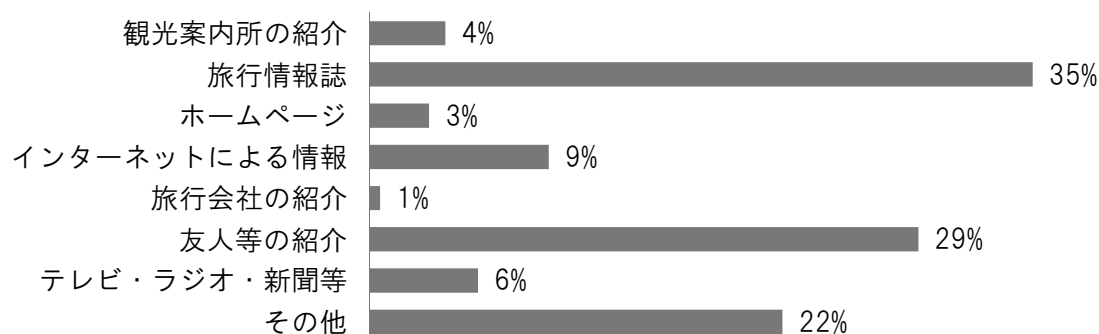


Q7 訪問のきっかけ

- ・訪問のきっかけでは、旅行情報誌が最も多く、次いで友人等の紹介となっている。
- ・ホームページやインターネットによる情報をきっかけで訪問した人は少ない。

	回答数
観光案内所の紹介	14
旅行情報誌	122
ホームページ	11
インターネットによる情報	33
旅行会社の紹介	2
友人等の紹介	101
テレビ・ラジオ・新聞等	20
その他	76

訪問のきっかけ



観光案内所名称

○首里城、○海中公園、○ぬちまーす

情報誌名称

○るるぶ、○ことりっぷ、○まっぷる、○ちゃらなび、○空港やホテルの小冊子

ホームページ名称

○うるま市の観光HP、○Facebook、ブログ等、○うるま市観光案内HP

その他のきっかけ

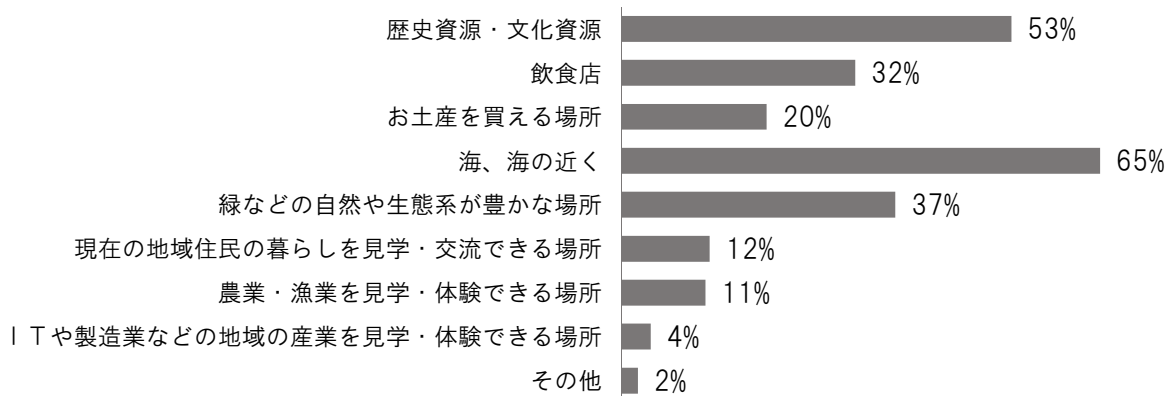
○JTB、○城めぐりの為、○家族の紹介・同行、○地元なので知っていた、○立寄り、
○県外の友人を頻繁に連れてきている(絶景なので)、○仕事、○道路の看板、○通りすがり、
○日本の世界遺産を巡っている為、○島内一周の際、○県内ドライブ、○タクシーの運転手さんからの口コミ

Q 8 勝連城跡周辺で訪れたい場所

- ・勝連城跡周辺で訪れたい場所は、海、海の近くが最も多く、次いで歴史資源・文化資源、緑などの生態系が豊かな場所であった。
- ・逆に地域の産業に関する体験等への参加意向は少なかった。

	回答数
歴史資源・文化資源	185
飲食店	111
お土産を買える場所	69
海、海の近く	227
緑などの自然や生態系が豊かな場所	130
現在の地域住民の暮らしを見学・交流できる場所	42
農業・漁業を見学・体験できる場所	40
I Tや製造業などの地域の産業を見学・体験できる場所	14
その他	8

勝連城跡周辺で訪れたい場所



その他の意見

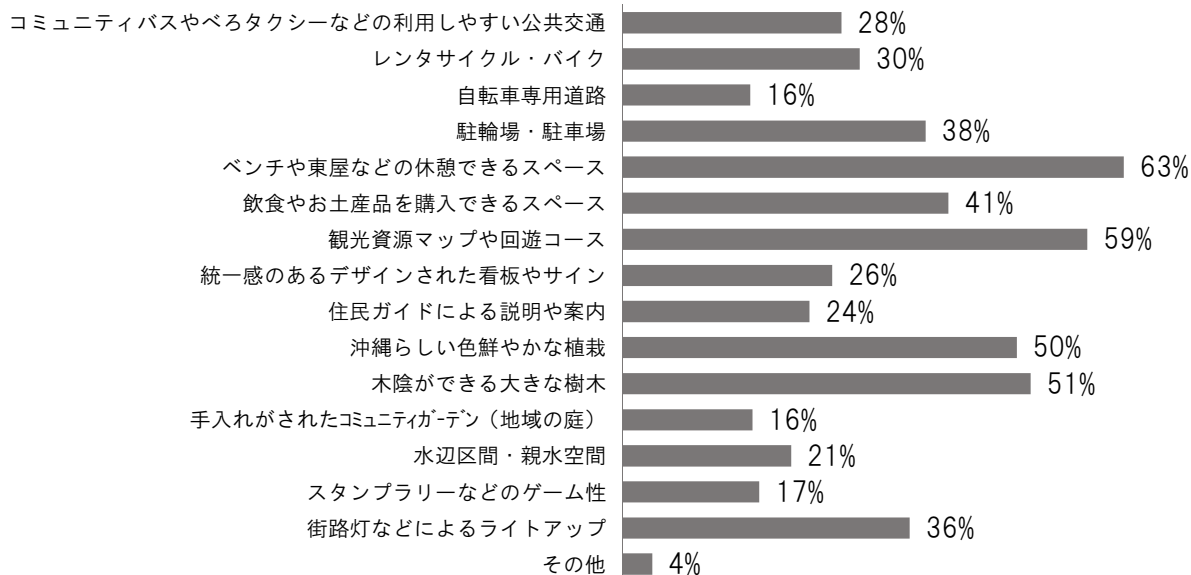
○景色の良い所、○古い集落、○サンエー、○休憩所、○海中道路、○泡瀬漁港での食事

Q9 回遊するにあたって望むもの

- ・回遊するにあたって望むことは、休憩スペースが最も多く、次いで観光資源マップや回遊コース、木陰ができる大きな樹木であった。

	回答数
コミュニティバスやベロタクシーなどの利用しやすい公共交通	96
レンタサイクル・バイク	104
自転車専用道路	56
駐輪場・駐車場	133
ベンチや東屋などの休憩できるスペース	220
飲食やお土産を購入できるスペース	143
観光資源マップや回遊コース	204
統一感のあるデザインされた看板やサイン	92
住民ガイドによる説明や案内	82
沖縄らしい色鮮やかな植栽	173
木陰ができる大きな樹木	179
手入れがされたコミュニティガーデン（地域の庭）	57
水辺区間・親水空間	74
スタンプラリーなどのゲーム性	60
街路灯などによるライトアップ	126
その他	13

回遊するにあたって望むもの



その他の意見

○クーポン券、○パンフレット、○HPや情報誌による情報、○夜景を楽しむ、
○レンタカー、○オリジナルグッズ、○セグウェイ、○沖縄の言葉の紹介、○今のままで

【アンケート用紙】

勝連城跡周辺回遊観光に関する観光客アンケート

1 あなた（訪問者）について、該当する項目に○を付ける、または記入してください。

性別	1 男性	2 女性		
年齢	() 歳代			
住まい	1 うるま市内	2 県内（うるま市以外）		
	3 県外（国内）	4 国外		
	() 人			
同行者（自分含まず）				
同行者との関係	1 夫婦	2 家族	3 恋人	4 友人
ここまでの交通手段	5 その他 ()			
	1 路線バス	2 観光バス	3 レンタカー	4 自家用車
	5 その他 ()			
訪問回数	沖縄県の訪問回数 ⇒ はじめて (1 回目) or () 回目			
	勝連城跡の訪問回数 ⇒ はじめて (1 回目) or () 回目			

2 勝連城跡（南國原地区）への訪問のきっかけについて該当する項目に全て○を付けてください。

1 観光案内所の紹介（観光案内所名：)
2 旅行情報誌（情報誌：)
3 ホームページ（HP 名：)
4 インターネットによる情報（Facebook、Twitter、ブログ等）
5 旅行会社の紹介
6 友人等の紹介
7 テレビ・ラジオ・新聞等
8 その他 ()

3 勝連城跡周辺で訪れたいと思う場所に全て○を付けてください。（勝連城跡の周辺や資源マップを参照）

1 歴史資源・文化資源
2 飲食店
3 お土産を賣る場所
4 海、海の近く
5 緑などの自然や生態系が豊かな場所
6 現在の地域住民の暮らしを見学・交流できる場所
7 農業・漁業を見学・体験できる場所
8 IT や製造業などの地域の産業を見学・体験できる場所
9 その他 ()

4 勝連城跡周辺を回遊するにあたって、何を望みますか、該当する内容に全て○をつけてください。

移動	1 コミュニティバスやベロタクシーなどの利用しやすい公共交通
	2 レンタサイクル・バイク
	3 自転車専用道路
	4 駐輪場・駐車場
休憩	5 ベンチや果樹などの休憩スペース
	6 飲食や土産品を購入できるスペース
案内・サイン	7 観光資源マップや回遊コース
	8 統一感のあるデザインされた看板やサイン
	9 住民ガイドによる説明や案内
	10 沖縄らしい色鮮やかな植栽
植栽	11 木陰ができる大きな樹木
	12 手入れされたコミュニティガーデン（地域の庭）
	13 水辺空間・親水空間
	14 スタンブラリー等のゲーム性
その他	15 街路灯などによるライトアップ
	16 その他 ()

5 勝連城跡周辺の観光に関する意見や要望があれば、下枠に記入してください。

（よかったところ、よくなかったところ、改善してほしいところ など）
 （記入例：花壇などにより花や緑が感じられる空間があるとよい。）

アンケートへの協力ありがとうございました。

(2) 関連団体等意向調査

1) 調査概要

- 目 的 : 回遊路観光への関わりが想定される関係者である「個別の管理主体」「インフラ管理主体」「活動主体」にヒアリングを実施し、キーパーソンを発掘するとともに、管理運営体制への参画を啓発する。
- 実施方法 : ヒアリング形式
- 実施場所 : 各関係機関等へ個別訪問
- 実 施 日 : 平成26年9月30日(火)、10月1日(水)
- 対 象 : ①農政課／②商工観光課／③農業委員会／④文化課
⑤うるま市観光物産協会／⑥南風原希の会／⑦史跡ガイドの会

2) ヒアリング結果概要

<所管課、関連組織>

- 勝連城跡周辺で回遊観光に関連で取り組んでいる事業は、勝連城跡の整備や案内サインの整備など文化・観光に関連する事業が多く、農業や漁業などの産業に関連する事業はない。
- 案内サインの整備等は、文化課と商工観光課が調整しながら進めている。
- 勝連城跡を活用して様々なイベントが行われている。しかし、勝連城跡は規模が小さく、駐車場も少ないため、大きなイベントができない。
- 畑を休ませている時期に、観賞用の花を植えるなどの活用が可能。また、遊休農地の活用も考えられる。

<活動団体>

- ボランティアの活動団体であり、特に資金面と人材面に課題を抱えている。
- 活動内容の需要が高まってきていることから、メンバー不足やメンバーの負担が過大となっており、新規人材の確保と人材の育成が課題である。
- 活動団体との横のつながりがほとんどない。

(3)住民意向調査

1) 調査概要

- 目的： 集落を含めて回遊路観光を創出することに対する地域住民の考えを聴くとともに、回遊ルートのポイントやアイデア、協力できる内容等を聴くことで、協力意識を啓発する。また、キーパーソンの発掘を行う。
- 実施方法： グループインタビュー形式
- 実施場所： 南風原公民館
- 実施日： 平成26年10月6日(月) 19:00~21:00
- 対象： 「かっちん南風原まちづくり検討会」と「市民WS」の参加者

2) グループインタビュー結果概要

	アイデア、意見
歴史	・カッチンバーマーのストーリー性を持たせる ・文化体験学習ができる仕組みをつくる
拝所 (御嶽、カー等)	・パワースポット巡り(地域住民に配慮する必要がある) ・清掃の取り組みを復活させる ・なくなってしまった村獅子を復元する
休憩所	・回遊させるためには、途中にトイレや休憩所が必要 ・維持管理もしっかりする必要がある
移動	・レンタサイクル、サイクリングコース ・高齢者や障がい者のため、拠点には駐車場が必要である ・訪問者に対する案内サインを設置する
農地	・遊休農地に、訪問者が歩いて楽しめるように花を植える ・昔ながらの農作物(稲等)を再現した農業体験
空き家	・空き家を活用して農業体験、古民家の再生
ユビダー	・ユビダーに行くまでにある階段は街灯やヘビ対策などを整備する
元島原	・元島から集落移動の歴史をたどるストーリーをつくり回遊させる ・浜川カー近くに、石畳の整備が必要である
海岸	・浜屋東(ハマヤアガリ)には観光のポテンシャルがある。砂浜も残っている

3 勝連城跡周辺回遊観光整備基本計画策定委員会

本計画の策定にあたり、現況や課題、回遊観光の方針や目標等について、指導・助言を受けるため、関係課長で構成する策定委員会、関係係長で構成する幹事会を設置しました。策定委員会は延べ3回、幹事会は延べ3回開催しました。



策定委員会の様子



幹事会の様子

(1) 勝連城跡周辺回遊観光整備基本計画策定委員会の経過

会議名	年月日	検討テーマ
第1回 策定幹事会	平成26年 10月27日	● 勝連城跡周辺回遊観光整備基本計画の目的と策定スケジュール ● 各種意向調査の結果報告 ● 勝連城跡周辺の現状と課題 ● 全体整備方針（案）
第1回 策定委員会	平成26年 10月29日	● 勝連城跡周辺回遊観光整備基本計画の目的と策定スケジュール ● 各種意向調査の結果報告 ● 勝連城跡周辺の現状と課題 ● 全体整備方針（案）
第2回 策定幹事会	平成27年 1月13日	● 第1回庁内委員会・幹事会のご意見と対応 ● 全体整備方針 ● 個別整備計画（案） ● 回遊観光プラン（案）
第2回 策定委員会	平成27年 1月14日	● 第1回庁内委員会・幹事会のご意見と対応 ● 全体整備方針 ● 個別整備計画（案） ● 回遊観光プラン（案）
第3回 策定幹事会	平成27年 3月30日	● 第2回庁内委員会・幹事会のご意見と対応 ● 勝連城跡周辺回遊観光整備基本計画
第3回 策定委員会	平成27年 3月30日	● 第2回庁内委員会・幹事会のご意見と対応 ● 勝連城跡周辺回遊観光整備基本計画

4 管理・運営体制構築の検討会

勝連城跡周辺の回遊観光にあたり、地域住民をはじめ、様々な関係者の協力が不可欠です。そこで、現在主体的にまちづくり活動に取り組んでいる方や、今後の管理・運営にあたって中心となっていきたい方を集めて、勝連城跡回遊観光整備を推進するため必要な管理・運営の取り組みや組織体制に関する意見交換を行う検討会を開催しました。検討会は2回開催しました。



第1回検討会の様子



第2回検討会の様子

(1)管理・運営体制構築の検討会の経過

会議名	年月日	検討テーマ
第1回	平成26年 10月31日	● 検討会の目的と目指すべき姿 ● 参加者の顔合わせ、理想的な活動についての意見交換 ● 視察の案内
県外視察	平成26年 11月26日 ～28日	<視察先> ①大分県宇佐市、②大分県別府市、 ③熊本県熊本市、④鹿児島県南九州市
県内視察	平成27年 2月8日	<視察先> ①沖縄県南城市
第2回	平成27年 2月13日	● 第1回の検討会のおさらい ● 視察会の報告 ● 管理運営体制の検討

5 先進地視察

(1) 目的

回遊性向上や観光客の滞在時間の拡大の取り組み、それらの取り組みの効果などの知見を得ることと、管理・運営組織との意見交換を通して、成功の裏に隠されたヒントを学ぶことを目的に、市先進地視察を実施しました。

(2) 視察の概要

1) 県外視察

実施日 : 平成26年11月26日～28日（2泊3日）
視察地 : ①大分県宇佐市、②大分県別府市、③熊本県熊本市、④鹿児島県南九州市
参加人数 : 16名（事務局含む）

2) 県内視察

実施日 : 平成27年2月8日～28日（2泊3日）
視察地 : 沖縄県南城市
参加人数 : 23名（事務局含む）

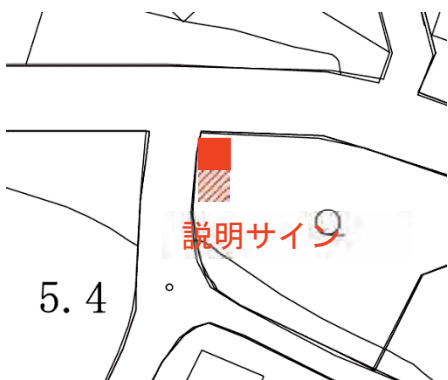


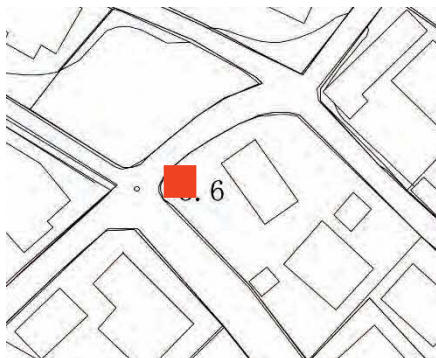
視察会の様子（熊本市）

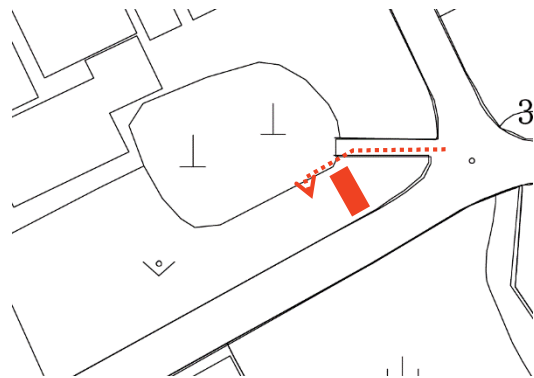


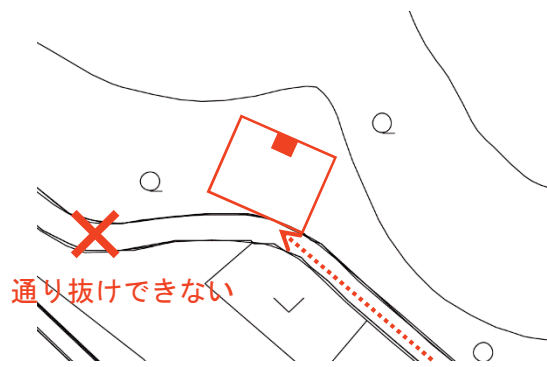
視察会の様子（南九州市）

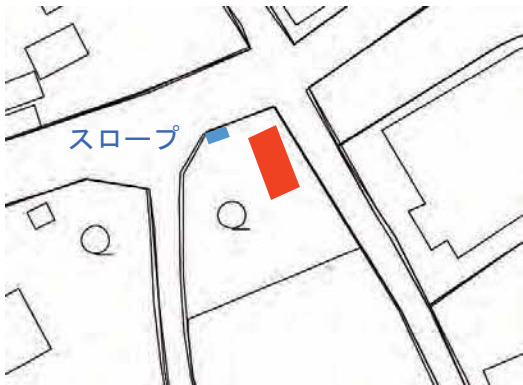
6 重点資源カルテ

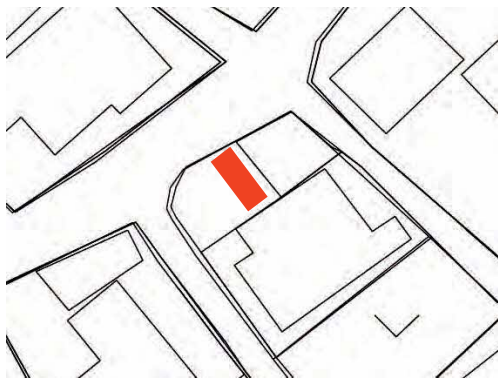
名 称		村獅子 1				
位 置		集落北西部南風原 1 3 9 番地				
						
概 要		・ 集落北西部南風原 1 3 9 番地、平成 3 年町指定文化財。 ・ ウスクの木の根元に置かれた高さ約 5 0 c m、石炭岩製の石獅子。 ・ 集落に(ヤナムン)の侵入することを防フーチーゲージー（邪気払い）の目的として、村の 4 角に置かれたと伝えている。現在では、北側と西側のみ残っている。 ・ 1 7 2 6 年勝連城の南斜面の地域から、現在地に移動し、近世の村の境界を示している。				
敷地	敷地面積	—		所有者	個人	
	駐車場	なし				
資源	設置面積	0.3m×0.3m 程度		文化財指定等	市指定文化財（平成 3 年）	
	設置時期	1 7 2 6 年ごろ		所有者／管理者	不明／区	
利用	利用・見学可能時間	常時見学可		サイン	誘導サイン	なし
	利用・見学科金	なし			説明サイン	あり
バリアフリー	段差	なし				
	整備	手すり	—			
		スロープ	—			
状 況	破損状況	半分破損（～5 割）している 獅子となんとなく認識できる程度に残っている。村獅子のなかで一番保存状態が良い。				
	清掃状況	十分清掃されている				
特記事項		構造等：サンゴ石灰岩				
						

名 称		村獅子 2				
位 置		南風原 1 7 0 番地				
						
概 要		・ 南風原 1 7 0 番地南西角地。 ・ 南風原集落の四隅を示す四つのうち一つ。 ・ 畑地の角にあり、欠け落ちができていて、注意して観察しないと石塊と見間違えてしまう。				
敷地	敷地面積	—		所有者	個人	
	駐車場	なし				
資源	設置面積	0.3m×0.3m 程度		文化財指定等	なし	
	設置時期	1 7 2 6 年ごろ		所有者／管理者	不明／区	
利用	利用・見学可能時間	常時見学可		サイン	誘導サイン	なし
	利用・見学料金	なし			説明サイン	なし
バリアフリー	段差	なし				
	整備	手すり	—			
		スロープ	—			
状況	破損状況	大部分が破損（～9割） 獅子と認識できる状態ではない。トタンの塀に囲われており、獅子の部分だけトタンが切り取られている。				
	清掃状況	少し汚れている				
特記事項						
						

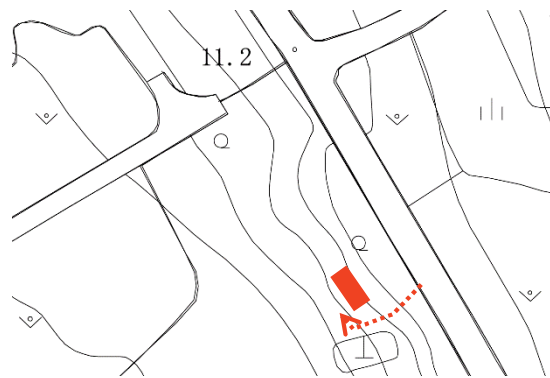
名 称		浜崎のビジュル(浜崎の寺)				
位 置		字南風原 浜崎 1274 番地				
						
概 要		・このビジュルは、向って右側は女シー(イナグシー)、左側は男シー(イキガシー)で南風原ノロ殿内とのつながりがあるといわれている。なお、拝むときは、お香には火をつけずに右女シーを先に拝むこと。 ・このビジュルを拝むと、子宝に恵まれる、海外移民の健康祈願になると伝えられ、又、普天間権現とのつながりがあって、このビジュルから普天間権現へのお通しもできる。 ・旧二月、八月の十日以内に村御願を行う。				
敷地	敷地面積	不明		所有者	区	
	駐車場	なし				
資源	設置面積	2m×3m 程度		文化財指定等	なし	
	設置時期	不明		所有者／管理者	不明／区	
利用	利用・見学可能時間	常時見学可		サイン	誘導サイン	あり
	利用・見学料金	なし			説明サイン	あり
バリアフリー	段差	あり				
	整備	手すり	×			
		スロープ	×			
状 況	破損状況	一部破損（～3割） セメントにヒビがある				
	清掃状況	十分清掃されている				
特記事項		・現在、うるまーいのコースに入っている。 ・構造等：セメント				
						

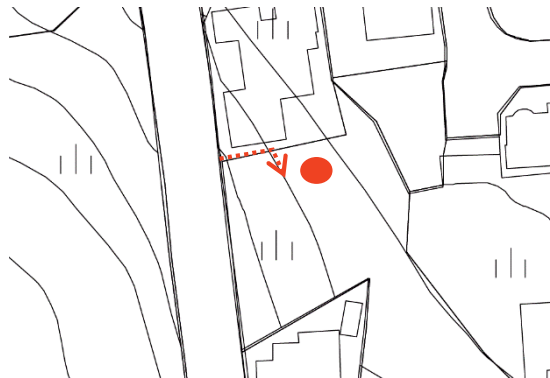
名 称		コト瀬嶽（通称クトゥジ御嶽）			
位 置		南風原 助加屋 1599 番 1			
					
概 要		・昔唐（現中国）からきた女がクトゥジ御嶽の洞穴で子供を出産したところと伝えられる。故に男禁制の拝所であり、男は女装（ウシンチー）して拝んだとの口碑がある。 ・旧 2 月、8 月に村御願を行う。			
敷地	敷地面積	不明		所有者	区
	駐車場	なし			
資源	設置面積	不明		文化財指定等	
	設置時期	不明		所有者／管理者	区／区
利用	利用・見学可能時間	常時見学可		サイン	誘導サイン あり
	利用・見学料金	なし			説明サイン あり
バリアフリー	段差	あり			
	整備	手すり	×		
		スロープ	×		
状況	破損状況	一部破損（～3割）			
	清掃状況	十分清掃されている			
特記事項		・現在、うるまーいのコースに入っている。			
					
					

名 称		東ウカー（アガリガー）（共同井戸で、ンブガーである）			
位 置		南風原 同 19 番地 （一班と二班の境界）			
					
概 要		・旧藩時代は、公儀（クージ）の許可がなければ個人用の井戸は掘れなかった。よって村内の要所3ヶ所に共同井戸がつくられた。ンブガーともいう。 ・現在は使用されていない。 ・旧2月、8月に村御願を行う。 ・集落東側、南風原19番地にあるムラガー1m×4mの水面を切石積で囲んである平地の湧水泉。			
敷地	敷地面積	4m×4m	所有者	区	
	駐車場	なし			
資源	設置面積	ガー：1m×4m、洗い場：3m×4m	文化財指定等		
	設置時期	旧藩時代	所有者／管理者	区／区	
利用	利用・見学可能時間	常時見学可	サイン	誘導サイン	なし
	利用・見学科金	なし		説明サイン	なし
バリアフリー	段差	あり			
	整備	手すり	×		
		スロープ	○		
状況	破損状況	ほとんど破損なし（1割未満）			
	清掃状況	十分清掃されている			
特記事項		・水面は、事故防止のための金網で囲われている。			
					

名 称		マンナカウカー（マンナカガー）			
位 置		南風原 同 110 番 （三班と四班の境界にある）			
					
概 要		・沿革は東ウカーと同じ。共同井戸でンブガーともいう。 ・現在は使用されていない。・旧 2 月、8 月に村御願を行う。 ・集落ほぼ中央南風原 110 番地にある。 ・1m×4m の水面を切石積で囲んだ平地の湧水泉。 ・3m×4m の洗い場があり、セメントで表装されている。金網囲い。			
敷地	敷地面積	4m×4m	所有者		区
	駐車場	なし			
資源	設置面積	カー：1m×4m、洗い場：3m×4m	文化財指定等		
	設置時期	旧藩時代	所有者／管理者		区／区
利用	利用・見学可能時間	常時見学可	サイン	誘導サイン	なし
	利用・見学料金	なし		説明サイン	なし
バリアフリー	段差	あり			
	整備	手すり	×		
		スロープ	×		
状況	破損状況	ほとんど破損なし（1 割未満）			
	清掃状況	十分清掃されている			
特記事項					
					
					

名 称		イリーガー（ニーヌハのウカーとも言う）				
位 置		南風原 同 178 番 （五班の後方にある）				
						
概 要		- 沿革は東ウカーと同じ。共同井戸でンブガーともいう。現在は使用されていない。 - 旧 2 月、8 月に村御願を行う。 - 集落の西、南風原 179 番地。西北の村獅子のすぐ南側にある。 - 畑地の 3m 位の高さの大岩の南面に切石積で 1m×4m の水面を囲み、2m×4m のセメント表装の洗い場がある。 - 金網囲い。				
敷地	敷地面積	3m×4m		所有者	区	
	駐車場	なし				
資源	設置面積	カー：1m×4m、洗い場：2m×4m		文化財指定等	なし	
	設置時期	旧藩時代		所有者／管理者	区／区	
利用	利用・見学可能時間	常時見学可		サイン	誘導サイン	なし
	利用・見学料金	なし			説明サイン	なし
バリアフリー	段差	あり				
	整備	手すり	×			
		スロープ	×			
状 況	破損状況	ほとんど破損なし（1 割未満）				
	清掃状況	十分清掃されている 希の会のプランターが設置されている。				
特記事項						
		  				

名 称		浜川ウカー（ハンガーガー）				
位 置		字南風原 樋川 3261 番				
						
概 要		・勝連按司系 第一世浜川按司の娘真鍋樽(マナンドルー)は絶世の美人で同人の黒髪は身長の1.5 倍もあって、その頭髪を洗髪したことで、有名である。 ・南風原村の元島時代のンブガーであった。 ・毎年旧正月の元旦は、南風原及び近隣部落の門中によって「カーウビー拝み」が行われている。 ・旧二月、八月に村御願を行う。 ・ウスクの木繁り、昼も薄暗いグスク時代からと伝えるカーである。字の繁栄を願う拝所。				
敷地	敷地面積	3m×2m		所有者	区	
	駐車場	なし				
資源	設置面積	カー：1m×2m、洗い場：2m×2m		文化財指定等	なし	
	設置時期	不明		所有者／管理者	区／区	
利用	利用・見学可能時間	常時見学可		サイン	誘導サイン	あり
	利用・見学料金	なし			説明サイン	あり
バリアフリー	段差	あり				
	整備	手すり	○			
		スロープ	×			
状況	破損状況	ほとんど破損なし（1 割未満）				
	清掃状況	十分清掃されている				
特記事項		・現在、うるまーいのコースに入っている。 ・構造等：石積囲い				
						

名 称		マーカーガー			
位 置		字南風原 外当 3206 番			
					
概 要		・ 神人(カミンチュ)が生まれた時のヌールガーである。 ・ ウマチー(お祭)、神拝みのときは、神人はこのカーで手足を清めて城内(グスクウチ)に登った。 ・ 南風原村の元島時代のフンガーであった。 ・ 旧二月、八月に村御願を行う。			
敷地	敷地面積	不明		所有者	区
	駐車場	なし			
資源	設置面積	カー：1m×2m 程度		文化財指定等	
	設置時期	不明		所有者／管理者	区／区
利用	利用・見学可能時間	常時見学可		サイン	誘導サイン
	利用・見学料金	なし			説明サイン
バリアフリー	段差	あり			
	整備	手すり	○		
		スロープ	×		
状 況	破損状況	ほとんど破損なし（1割未満）			
	清掃状況	少し汚れている			
特記事項		・ 構造等：石積囲い			
					

部落（ムラ）の年中行事

番号	イベント名称	概要	時期
1	初ウグワン(初御願)	ノロ、神人、区長をはじめ有志多数がノロ殿内神屋に集合し、区民の健康と部落の繁栄、五穀豊穰を祈願する。午前10時頃集合して、ノロ殿内、高良の神屋、報恩社の三ヵ所で祈願する。	旧1月1日
2	七日の節供(ナナカンスク)	ノロ殿内のみで行われるウグワン。島袋家より豚の耳皮（ミミガー）も供えられるが、これは「ミミガニ、ソウガニ、アラチウタビミソーリ」（耳も達者でボケないように）という意味がある。隣り部落の西原、平安名、内間のノロ殿内からも代表者が祈願に参加されている。	旧1月7日
3	旧二月村御願	1日～10日までの間に適当な日を選び行われる御願。公民館よりウチャヌク重箱にモチ、豆腐、豚肉、昆布などのごちそうが準備され、午前11時に公民館の火の神を最初に勝連城跡内拝所まで、計53箇所で行われる。	旧2月1～10日の1日間
4	旧八月村御願	旧2月村御願同様に行われる。	旧8月1～7日の1日間
5	二月ウマチー(麦穂祭)	前年の秋に蒔いた麦穂が実を結ぶ時期に行われた行事。公民館より米（ミハナ）と神酒（ミキ・ンシャクともいう）が準備される。神酒は、米、麦、粟を原料に用いた手作りの酒を自治人が作っていたが、現在は公民館の職員が糯米粉、砂糖、酢を用いて作っている。参加するノロや神人は、真川井（マーカーガー）で拝み、身を清めてから勝連城内へ登る。三の曲輪に到着すると神人は無地の白衣などで正装する。	旧2月15日
6	三月ウマチー	農作物の豊作祈願で、麦の収穫祭である。昔は勝連城内まで御願をしていたが、現在ではノロ殿内で行われる家ウマチーとなっている。	旧3月15日
7	五月ウマチー(稲穂祭)	2月ウマチーと同様に行われるが、年4回行われるウマチーのうち、特に重要な御願に位置付けられている。神に稲の初穂を供え、豊作を祈願する稲穂祭である。ウマチーの日には、針仕事や堆肥（カジグェー）運搬業務を禁ずる物忌が行われていた。これを守らないとハブにかまれるという言い伝えがある。	旧5月15日
8	六月ウマチー	家ウマチーで、稲の収穫祭である。豊作に感謝し、区民の健康、部落の繁栄を祈願する。	旧6月15日
9	ウンチャメー	ウマチーの2日前にノロ殿内で行われる御願。ノロを中心に、神人、区長参加のもと行われる。	旧2月13日 旧3月13日 旧5月13日 旧6月13日
10	クトウジ御願	浜屋集落より東側約100mに位置するクトウジ御嶽に、供物を供えて航海安全を祈願する。クトウジ御嶽の御願が済むと、漁港に移動し、漁民も多数参加して船の航海安全と豊漁祈願が行われる。海人が各家庭から持ち寄ったごちそうをいただきながら、夜遅くまで酒宴が催される。	3月3日 ※多分旧暦

番号	イベント名称	概要	時期
11	慰霊祭	戦後間もなく南風原農村公園（遊び庭（アシビナー））に慰霊塔が建設され、旧盆の翌 16 日に戦没者慰霊祭が行われる。公民館前からテークチリを先頭に旗頭行列を農村公園まで行い、そこで青年エイサー、棒術、獅子舞、婦人のウスデークと伝統芸能が奉納される。	旧 7 月 16 日
12	八月十五夜(ジュウグヤー)	公民館前広場において、伝統の棒術、獅子舞が披露される。最近では、古典音楽や舞踊、ウスデーク等も披露される。	旧 8 月 15 日
13	島クサラー	豚肉を挟んだ左縄縄（ヒダリナウナワ）を竹に張りつけ、南風原本部落の東西南北の入口十ヵ所に立てる。これは、ムーチーの日に行う悪疫払いの行事で、外からの疫病を防ぐ意味がある。夕方には、区長と職員が火の神を拝み、公民館の出入り口で外に向かい悪疫が部落に侵入しないようにと、酒、ハナ米を供えて祈願する。自治人制度のある頃は、この日が次の自治人への交替の日であった。また、一年間で悪事をはたらいたものの罰金納付の日でもあった。社会秩序を守るため、南風原区独自の規則が設けられていた。	旧 12 月 7 日

出典：勝連町南風原字誌

(6) 伝統芸能

番号	イベント名称	概要	時期
1	棒術	棒振りという踊りの要素を持ち、その威勢の良さから災厄が払われるといい、幸先のよい芸能と考えられている。一人あるいは二人一組、三人一組で一つの型を演じるものである。型には 4 通りあったが、津堅手（チキンディ）は継承者がなく現在は演じられていない。 着付は、白シャツ、白ズボン、黒帯でたすきをかけ黄帯を締める。	慰霊祭
2	組手	組手は、エークぬ手（櫓（カイ）とイグン）とナジナタぬ手（長刀と槍）の 2 つの型がある演武があったが、現在は行われていない。	
3	獅子舞	魔除け、豊年祈願として演じられていたと思われる。大正初期まで型が決まっていなかったが、大正 13 年から現在の型が演じられるようになった。 現在の獅子頭は、昭和 17 年に製作され、以後何度か修理されたものである。村に伝わる芸能、特に獅子舞は獅子が村の守護神であることもあり、他部落に教えることが好まれなかったが、近年では伝統芸能として広く紹介されるようになっている。	慰霊祭
4	南ぬ島(フェーヌシマ)	棒踊りの一つ。南風原の南ぬ島は、1850 年頃に首里の士族が唐人から武術として南ぬ島の技の指導を受けているのを、武士ウスメーが盗み見て覚え、南風原部落に持ち帰り若者に教え広めたのが起こりであると言われている。北中城村、読谷村にも保存継承されているものと異なり、武術（喧嘩手）であることが特徴といわれている。一度は途絶えたものの、昭和 59 年に復活し、南風原区芸能発表会と勝連町文化祭で披露された。	慰霊祭？

番号	イベント名称	概要	時期
5	臼太鼓(ウスデーク)	沖縄諸島に伝わる伝統的な民俗芸能の一つで、婦人達だけによって踊られる。年長者の神人たちが先頭になって太鼓で音頭をとり、円陣を組んで踊られる。一般に御嶽の祭、氏神や根屋で砲煙感謝の祈願をしてから催される。 南風原においては、戦前は旧八月十五夜祭に遊び庭（アシビナー）において東西に分かれて演舞されていたが、大正末期頃から東西合流して行われるようになった。戦後、遊び庭の一角に戦没者慰霊碑を建立して戦没者を慰霊することになり、旧七月十六日の慰霊祭に青年会のエイサーとともに奉納されるようになった。	慰霊祭
6	舞踊 組踊	琉球舞踊や組踊は琉球王朝時代に中国からの冊封使一行の歓待の余興として演じられていた。地方農村の舞踊や組踊はそれが波及浸透したものである。 大正時代になって南風原区でも人気役者を招いて指導を仰ぎ、村遊びを充実させてきた。	
7	古典音楽・地謡	古典音楽は琉球舞踊と結びつきながら発展してきた。南風原区では村遊びで演じられた。	
8	青年エイサー	エイサーは旧盆の13日から先祖の霊を供養する意味で、各戸訪問をしながら夜通し演じられた。戦前は思いおもいの着付けで参加していたが、戦後に現在の着付けになった。慰霊碑が建立されてからは、14、15日に各戸訪問、16日に慰霊祭で棒術、獅子舞、ウスデークとともに奉納を行っている。現在は本部落のみの奉納となっている。	旧盆、慰霊祭
9	テークチリ	シメ太鼓4個、鉦鼓2個の6名が一組になって演じられる。戦前は旧八月十五日夜に、戦後は旧七月十六日慰霊祭で演じられるようになった。旗頭行列（道ズネーイ）では音曲と合わせて打ち鳴らし、進行方向が変わるごとに演舞される。	慰霊祭
10	道ズネーイ	「勸徳業」と大書した旗頭を先頭に、公民館から遊び庭まで三味線にあわせてどら鉦、鉦鼓、太鼓を打ち鳴らしながら歩く。戦前は旧八月十五日の十五夜遊びに、戦後は旧七月十六日に行われる。	慰霊祭

出典：勝連町南風原字誌

勝連城跡周辺回遊観光整備基本計画

発行日：平成 27 年 3 月

発 行：沖縄県うるま市 都市計画課

〒907-8501 沖縄県うるま市石川石崎一丁目 1 番

TEL (098) 965-5620 FAX (098)965-3565